

一人暮らしで母の偉大さ知る

大学生 時津 弘太朗
(北九州市小倉北区 18)

1年ほど前、父がいきなり仕事を辞めてファイナンシャルプランナーの事務所を立ち上げると言い出した。当時、父は45歳で郵便局長という安定した職業だった。昨年は私の大学受験期で大変な年だった。そんな中での一家の大黒柱の決断、母と姉、私、弟の家族には衝撃だった。

しかし母は「あん人はなんば言っても聞かん

っさ。しょうがなか」と、私や姉が心配しないように言ってくれた。一家の生活費のことは一切口にせず、毎朝、3歳の弟を保育所に送り、それから派遣の仕事に行った。疲れていても弟の手を引きながら帰宅し、夕飯を作り、家族の帰宅を笑顔で待っていた。

最近一人暮らしを始め、母の大きさを実感した。料理や洗濯など全部自分でしなければならぬ。母はよく私に肩をもんでくれと頼んできた。私は嫌がっていたが、帰省した時は肩をもんであげようと思う。母の日にはアルバイトの初月給で肩こり解消のペンダントを贈った。